

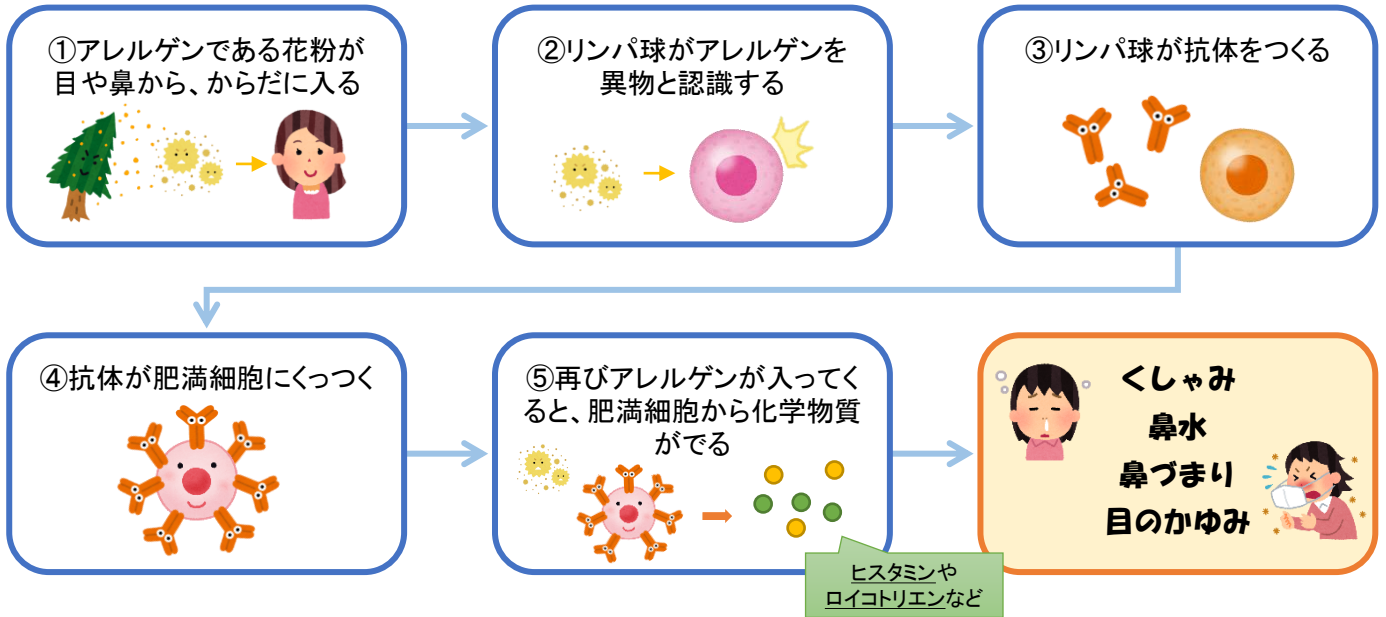


くすりとからだ ~花粉症について~

2023年春号

暖かくなってきましたね。こんにちは。市立御前崎総合病院薬剤科です。
今年は何年にも比べ、スギ花粉の飛散量が多いと言われていましたね。スギ花粉は落ち着いてきましたが、4月はヒノキ花粉の飛散量が増える時期です。今回の号では花粉症についてお話しします。

花粉症のメカニズム



花粉症の治療薬について

花粉症では主にくしゃみや鼻水等の症状を和らげる薬が使われています。その中でもドラッグストアでも買える、広く流通している薬に「抗ヒスタミン薬」というものがあります。抗ヒスタミン薬は花粉症の症状を引き起こす化学物質である「ヒスタミン」をブロックすることで、花粉症の症状を抑えます。

アレグラ®、アレジオン®、エバステル®、ザジテン®、クラリチン®等々、花粉症の人なら聞いたことのある名前かもしれませんが、これらはすべて抗ヒスタミン薬の分類に含まれます。

抗ヒスタミン薬は花粉症の症状を抑える良い薬なのですが、副作用として眠気を生じることがあります。それは、抗ヒスタミン薬が吸収されて、脳に移行することによって、脳内のヒスタミンをブロックしてしまうためです。そのため、普段から車に乗っている人や、仕事で危ない機械を操作する人は、服用に注意が必要です。ドラッグストアで薬を買う場合には薬の箱や同封されている薬の説明書を読んだり、薬剤師や登録販売者の話を聞いて、正しく薬を使うようにしましょう。

インペアードパフォーマンスとは

花粉症でよく使われる抗ヒスタミン薬は、前述したとおり眠気を催すことがありますが、もし眠気を感じていなくとも、知らず知らずのうちに「パフォーマンスの低下」が起こることがあります。このことを「インペアードパフォーマンス」といいます。

インペアードパフォーマンスは、本人が気づかないうちに生じることがあるため、生活全般のさまざまな場面で影響がでる可能性があります。授業に集中できなかつたり、テストでうっかりミスをしてしまうのは、抗ヒスタミン薬が影響しているかもしれませんね。インペアードパフォーマンスを起こしにくい抗ヒスタミン薬もあるため、気になる方は医師、薬剤師に相談してください。